１　次の文章は『更級日記』の一節で、作者が久しぶりに父親と再会した場面である。これを読んで、あとの問に答えよ。　〈山梨大〉二〇二一年度出題

　あづまに下りし親、からうじて①上りて、西山なる所に落ち着きたれば、そこにみな渡りて見るに、いみじううれしきに、②月のあかき夜一夜、ものがたりなどして、

　③かかる世もありけるものを限りとて君にわかれし秋はいかにぞ

といひたれば、いみじく泣きて、

　④思ふことかなはずなぞとひこし命のほども今ぞうれしき

　これぞ別れの門出といひしらせしほどの⑤かなしさよりは、たひらかに待ちつけたる⑥うれしさも限りなけれど、「人の上にても見しに、老いおとろへて、世にいでまじらひしは、をこがましく⑦見えしかば、我はかくてとぢこもりぬべきぞ」とのみ、残りなげに世を⑧思ひいふめるに、⑨心細さ堪へず。

（『更級日記』による）

注　西山―京の西北部。

　　わかれし秋―父が国司として赴任するため父娘が別れた秋。

問１　傍線部①「上りて」とあるが、どこからどこに上ったのか、説明せよ。

問２　傍線部②「月のあかき夜」を現代語に直せ。

問３　傍線部③「かかる世」を和歌の修辞法に注意してわかりやすく説明せよ。

問４　傍線部⑦「見えしかば」の「しか」、傍線部⑧「思ひいふめる」の「める」を文法的に説明せよ。

問５　傍線部④「思ふことかなはずなぞと厭ひこし命のほども今ぞうれしき」の和歌は、父親のどのような心情を歌っているか、説明せよ。

◎問６　作者の心情は、傍線部⑤「かなしさ」、傍線部⑥「うれしさ」、傍線部⑨「心細さ」と変化している。この心情の変化について、それぞれの原因を明らかにしながら順を追って説明せよ。

【解答と採点基準】

問１　東国から京に

問２　月が明るい夜

問３　Ａ「世」は「夜」との掛詞で、「Ｂ月の明るいこのような夜に、Ｃ父と再会できたこのような折」という意味。

Ｂ・Ｃがなければ全体０。

Ａ＝２

Ｂ＝４〔同意表現可。〕

Ｃ＝４〔同意表現可。〕

問４　⑦＝過去の助動詞「き」の已然形

　　　⑧＝推定（婉曲）の助動詞「めり」の連体形

問５　Ａ年老いてから東国への赴任の命を受けるなど、Ｂ不本意なことばかりだと嫌ってきた命の長さも、Ｃ家族と再会できた今となってはＤ本当にうれしいという心情。

Ｂ・Ｄがなければ全体０。

Ａ＝２〔同意表現可。〕

Ｂ＝３〔「嫌う」といった心情表現がなければ０。〕

Ｃ＝２〔同意表現可。〕

Ｄ＝３〔「うれしい」といった心情表現がなければ０。〕

問６　Ａ父親が東国に下る際に永遠の別れになると言ってきたための悲しさよりも、Ｂ再び上京した父親と家族が無事に再会できたことによるうれしさはこの上なかったが、Ｃ官途に対する執着を捨て隠居を決めたという父親の言葉を聞かされたために心細く思う Ｄようになった。

Ａ・Ｂ・Ｃがなければ全体０。

Ａ＝３〔「父親が東国に下る際」といった内容がなければ減点１。〕

Ｂ＝３〔「再び上京した父親」といった内容がなければ減点１。〕

Ｃ＝３〔「官途に対する執着を捨て」といった内容がなければ減点１。〕

Ｄ＝１〔全体として心情の変化の説明ができていればよい。〕

【現代語訳】

　東国に下っていた親（＝父）が、やっと京に上って、京の西北部の西山にある家に落ち着いたので、そこに家族一同が移動して対面すると、たいへんうれしいので、問２月が明るい夜一晩中、話などをして、

　月の明るいこのような夜に、あなたと再会できたこのような折もあったのに（お会いするのが）最後と思ってあなたと別れた（あの）秋はどういうわけだったのか。

と（私が）言ったところ、（父は）ひどく泣いて、

　思うことがかなわないのはどうしてかと嫌ってきた（自分の）命の長さも

（家族と会えた）今はうれしいことよ。

　これが（永遠の）別れの門出（となるだろう）と（東国に下っていった父が）言って聞かせたときの悲しさよりは、無事に（再会のときを）待ち得た（今の）うれしさもこの上ないが、（その父が）「（今まで）他人事だとしても見ていたが、老い衰えて、官職に就き世間で交際していたのは、愚かしく見えたので、私はこのままできっと引きこもって（隠退して）しまいたい」とばかり、残り少ないように（自分の）余命について思いもし言いもするようなので、（私は）心細さを我慢できない。